

リンゴ輪紋病防除薬剤の残効性比較

福島県果樹試験場病理昆虫部・平成10年参考文献:果樹試験場試験成績書

1 部門名 果樹－リンゴ－病虫害防除 分類コード 04－01－23000000

2 要 旨

リンゴ輪紋病防除を対象にボルドー液代替剤のベフキノン水和剤、トモオキシラン水和剤についてボルドー液との残効性を比較した。試験は場内ほ場の‘ふじ’／‘M26’、18年生、1区1樹、2連制にて1回当たり計20果を供試し、6月23日に薬剤散布したのち、7月1日～28日の散布35日後まで計4回、薬剤散布された果実に対し柄胞子の懸濁液を接種した。調査は収穫期まで樹上発病調査を行い、収穫後は健全果を25℃室に搬入して保存21日後まで発病の有無を調査した。その結果、ベフキノン水和剤とトモオキシラン水和剤との比較ではトモオキシラン水和剤の方が本病に対する防除効果は高い傾向が認められたが、両薬剤の残効期間は散布後ほぼ8日～15日の間と考えられた。またボルドー液区では散布14日後でも発病果率は5.3%であり、ベフキノン水和剤およびトモオキシラン水和剤より残効期間は長かった。本試験は接種試験のため、自然感染条件に比べ厳しい条件を設定しているが、新規無ボルドー液防除体系の編成に当たって、この残効期間を十分考慮する必要があると考えられた。